

平成25年度「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進」取組成果概要  
 【農業分野(コンソーシアム):平成25年~】

「地方経済成長の一翼を担う林業再生のための人材育成体系の構築と教育評価・普及」  
 (国立大学法人鹿児島大学)

社会的ニーズ・背景等

・森林資源が成熟化  
 ・地方経済成長の基盤として林業再生の期待  
 しかし、  
 林業再生には、人的資源の面で量、質ともに様々な問題を抱えている  
 科学的な分析を元に、現場の状況に合わせた作業実施や計画立案のできる人材が必要

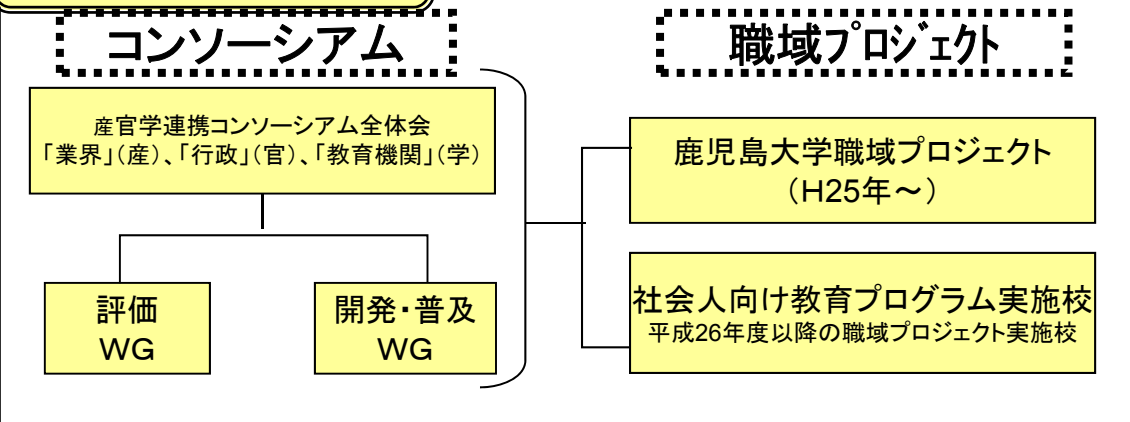
取組の概要

産官学が一同に会して、林業技術者の育成体制について検討するために、3つの会議を設定  
 1)コンソ全体会(教育体系の検討・統括)  
 2)教育プログラム評価WG  
 3)教育プログラム開発WG  
 ○現状と課題の整理の調査実施

事業開始時点の成果目標

・初年度:職域別の求められる人材の能力と育成のための教育体系(職域・職種の整理能力水準別の教育内容の検討)を構築。既存の職域別の教育プログラムの評価、教育体制の整備の課題を明確化  
 ・2年目:カリキュラムの基準や達成度を評価する指標や必要な教材の検討  
 ・3年目:各職域・職種の教育プログラムの相互の関連を考えて評価

体制イメージ図



参加・協力機関等

【専門学校】 岐阜県立森林文化アカデミー  
 【大学等】 北海道大学大学院農学院、岩手大学農学部、愛媛大学農学部、鹿児島大学農学部  
 【行政関係】 全国林業普及指導職員協議会、林野庁  
 【民間団体】 森林プランナー協会、林業人材育成支援普及センター、森林技術協会、森林・自然環境教育会、大日本山林会、全国林業労働力確保支援センター協議会他

平成25年度「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進」取組成果概要  
【農業分野(コンソーシアム)】

「地方経済成長の一翼を担う林業再生のための人材育成体系の構築と教育評価・普及」  
(国立大学法人鹿児島大学)

取組内容

林業人材育成の体系の検討会議

・連携教育体系の検討・全体会  
(養成の課題を整理、体系化と統括)  
開催回数 2回

・教育プログラム評価WG  
(教育プログラムの位置づけ・体系の整理、評価) 開催回数 4回

WGの関係者との情報交換の場

・教育プログラム開発WG  
(プログラム内容の改善、開発、普及)  
開催回数 2回

これらの会議・WGの運営ならびに検討に必要な情報収集・分析のため、事務局体制を確立。その支援を森林・林業人材育成に関する情報収集の実績があるコンサルタントに再委託する。

職域プロジェクトはまだ数が少な組みが少ないことが問題であるが、実施中の教育プログラムは現場から評価されている。

本年度成果

林業再生に必要な人材育成の体系を整理し、森林科学教育を携わる教育機関等による人材育成プログラムの取り組みの必要性を示した。既存の教育機関以外が実施している教育プログラムの問題点と課題の指摘。その結果、25年度には、林業再生に関わる職域別人材育成する体系と各職域別に必要な能力とレベルを明示  
次年度以降の職域・職種別の教育プログラムの取組を具体化、評価する

成果の活用・次年度の課題等

人材育成の体系整理による教育プログラムのターゲットの明確化に基づき、26年度は職域プロジェクト等により教育プログラムの取り組みを拡大。さらに各プログラムの評価を行って、職域・職種の教育プログラムの基準、達成度評価、カリキュラムの基準や達成度を評価する指標や必要な教材の検討

平成27年度 生産過程の相互関連も考慮した各職域・職種の教育プログラムの評価

平成25年度「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進」【農業分野(コンソーシアム)】  
 「地方経済成長の一翼を担う林業再生のための人材育成体系の構築と教育評価・普及」(国立大学法人鹿児島大学)  
 人材育成体系の整理(職域毎の求められる能力とレベル)

林業再生の前提: 1) 木材生産産業の経済性の確保  
 2) 計画性の確保: 長期の生産期間、森林の公益機能の確保  
 両方を確保するためには、役割の異なる様々な人材を育成することが必要

現在検討している林業再生に求められる人材の区分とレベル

職域	公共性確保の管理系	経済事業管理系	現場実施系	管理・経営系
(職務内容)	地域計画(市町村森林整備計画)立案・支援、実行の指導監督	事業計画立案、所有者への指導	事業地の実行、生産管理	事業計画、組織管理
必要な能力	地域の課題整理、長期の森づくりの方向性の提示や実行管理の評価、関係者の合意形成能力	短期間の森林施業の計画立案(資源把握、実行システム理解、木材利用等把握)、施業実施組織への指示	作業依頼内容の理解、作業実行能力(生産方法の決定、手順、安全の確保、効率性の追求等)、	事業体の経営計画立案、組織管理
レベル5	(指導者)フォレスター	プランナー統括者、指導者	研修指導者(マイスター)	事業体リーダー・責任者
レベル4		プランナー(経営計画見直し等)		
レベル3	フォレスター	プランナー(経営計画立案)	フォレストリーダー	事業体管理職
レベル2	都道府県林業普及指導員等	プランナー(事業見積もり立案)		
レベル1	都道府県上級林業職公務員	森組職員等(現場調査等)	フォレストワーカー	

職域別の人材の能力養成のため、現在行われている教育プログラムの位置づけを検討  
 ・鹿児島大学の中核的林業生産専門技術者養成プログラム⇒現場実施系のレベル3  
 ・愛媛大学の教育プログラム⇒経済事業関係系のレベル2-3

平成25年度「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進」【農業分野(コンソーシアム)】  
「地方経済成長の一翼を担う林業再生のための人材育成体系の構築と教育評価・普及」(国立大学法人鹿児島大学)  
コンソーシアム全体の評価とりまとめ(1)

林業再生のための各人材育成における教育プログラムの位置づけと評価

1)教育機関が実施していない教育プログラムの問題点

○公共性確保の管理系(准フォレスター研修プログラムの検討)

レベル2から3の段階の研修を実施。上位レベルの教育プログラムの検討が必要

○経済事業管理系(プランナー研修プログラムの検討)

レベル2の段階の研修を実施しているが、内容が不十分  
上位レベルの体系的なプログラムの検討が必要

○現場実施系(緑の雇用事業による研修プログラムの検討)

レベル1の段階の研修を中心に実施

レベル3の段階の研修も実施しているが、内容が不十分

⇒ 全体として短期的な研修であり、求められる能力の養成を確保する点で問題

2)教育機関が実施している教育の問題点

○現場実施系(鹿児島大学の中核的林業生産専門技術者養成プログラム)

新規の林業の現場から求められる能力への対応が必要

○経済事業管理系(愛媛大学の教育プログラム)

レベル0の段階の受講生が多く、初期の想定受講生の異なる。教育プログラムの追加が必要。ただし、現場対応の実践的な教育が実施されている。

上記以外の教育機関の教育プログラム等については、今後の社会人向けの実践教育への取り組み意向を調査中。2-3月のWG会議、全体会において検討

平成25年度「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進」【農業分野(コンソーシアム)】  
「地方経済成長の一翼を担う林業再生のための人材育成体系の構築と教育評価・普及」(国立大学法人鹿児島大学)  
コンソーシアム全体の評価とりまとめ(2)

〔平成25年度コンソーシアムの到達点〕

林業再生のための人材育成の体系整理

既存の教育プログラムの問題点と課題の指摘

〔来年度以降の課題〕

求められている林業人材と教育の課題について、森林科学に関する教育機関の理解が深まった平成26年度以降、コンソーシアム参加教育機関の職域プロジェクトへの挑戦を検討中  
他の教育機関への普及のため、3月下旬に検討成果を報告する場を設定し、多くの教育機関が、職域・職種の教育プログラムに取り組む機会を与える。

各職域・職種の教育プログラムの実施

既存の分野を超えた知見に加味



カリキュラムモデルの構築と標準化



達成度評価指標の構築

来年度以降も継続的教育プログラム等を普及する場、職域プログラム実施に当たっての各教育機関への支援をコンソーシアムで考える。